

■セミナーお申し込みについて

開催日時 2026年5月19日(火) 開催時間:14:00~17:00 (受付開始:開始時間30分前~)

船井総研グループ 東京本社 サステナグローススクエア TOKYO  
〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号東京ミッドタウン八重洲八重洲セントラルタワー35階

申込期限  
・銀行振込み: 開催日6日前まで  
・クレジットカード: 開催日4日前まで  
※ 祝日や連休により変動する場合があります

金額  
■一般価格(1名様) 税込33,000円(税抜30,000円)  
■会員価格(1名様) 税込26,400円(税抜24,000円)


※会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長onlineプレミアムプラン(旧:FUNAIメンバーズPlus)へご入会中のお客様のお申込みに適用となります。  
※諸事情により、やむを得ず会場を変更する場合がございますので、会場はマイページにてご確認ください。また最少催行人数に満たない場合、中止させていただく場合がございます。尚、中止の際、交通費の払戻し手数料等のお支払いはいたしかねますので、ご了承ください。

■講座内容

第1講座 2026年の児童発達支援・放課後等デイサービスの業界動向  
株式会社船井総合研究所 介護・福祉支援部 リーダー 金子 理彩

障がい福祉業界の動向を踏まえ、障がい児支援事業参入のための経営指針を解説します。


講座抜粋  
① 障がい福祉業界動向  
② 近年、保育・教育事業者が障がい児支援に参入している理由  
③ 障がい福祉業界の時流から考えられる、「いま、求められている障がい児支援事業」とは



第2講座 特別ゲスト講座 児童発達支援・放課後等デイサービス新規参入成功ストーリー  
社会福祉法人慈光明德会 株式会社常笑 代表取締役 藤岡 洋史氏

保育事業から児童発達支援・放課後等デイサービスへ参入し、地域に欠かせない事業へと成長させた実体験をお話いただけます。特に「どのような療育を提供すべきか」というプログラムの具体的な内容と、運営の苦労・成功のポイントをありのままにお話いただけます。


講座抜粋  
① 児童発達支援・放課後等デイサービス参入の経緯  
② 子どもの成長を促す独自の「療育プログラム」と具体的な手法  
③ 事業者として感じる保育園・幼稚園経営との違い



第3講座 開所から運営まで、『こども幼保×障がい福祉』で成功する方法大公開  
株式会社船井総合研究所 介護・福祉支援部 リーダー 金子 理彩

400事業所以上の児童発達支援・放課後等デイサービスの立ち上げ支援実績を誇る船井総合研究所より、事業の開所の流れや準備、利用者募集のポイントについて解説します。


講座抜粋  
① 何から始めたら良い!?開業までの実施事項チェックリスト解説  
② 新規職員採用や既存の園の職員向け研修の秘訣  
③ 新規問い合わせ数が月20名を超える集客施策



第4講座 本日のまとめ  
株式会社船井総合研究所 介護・福祉支援部 リーダー 藤光 孝法

セミナーの内容を自社に落とし込み、明日から何をやるべきかを整理します。成功法人の事例を基に、最短で成果を出すためのアクションプランを提示します。

講座抜粋  
① “今すぐ”実践に移すために、経営者に押さえていただきたい考え方  
② 情報を持ち帰るだけでなく具体的に実践するための考え方と方法をご紹介  
③ 今すぐ取るべき戦略を考える  
④ 全国のネットワークを駆使し、選ばれる法人を目指す方法



このようなお悩みをお持ちの皆様へ

- 既存園で対応し切れない発達障がい児やグレーゾーンの子どもの数が増えてきた
- どんな子どもでも受け入れていきたいが、配置できる職員数もあり受け入れに限界がある
- 集団活動や午睡が苦手な児童があり、他の児童も引っ張られてクラスがまとまらない
- 発達に凸凹の子どもたちにもっと関わりたい、自分たちでもっと支援をしたい
- 近隣の療育施設に通う在園児が増えているが、本当は自分たちの法人でもっと支援をしたい
- 児童発達支援を実施したいが、どのような支援プログラムにすればよいかわからない

はじめての参入でも失敗しない  
自園でそのまま真似できる!

児童発達支援・放課後等デイサービス

運動療育プログラム

公開セミナー



ゲスト法人が実現した3つの事例

01. 保育園・認定こども園からの参入し、狭商圏で7事業所、都内で4事業所を実現
02. 合計400名以上の登録者数で、地域の障害児の未来を支える
03. 保険収入月3,700万円/月をグループで達成

療育現場の実例映像 × 理事長が語る事業参入の道のり



参入のチャンスを「見て・聞いて・納得」する特別来場セミナー

来場型セミナー 開催日時 2026年5月19日(火) 開催時間 14:00~17:00 (受付開始:開始時間30分前~)

船井総研グループ 東京本社 サステナグローススクエア TOKYO

こども園幼稚園保育園向け 児童発達支援参入セミナー お問い合わせNo. S140192

主催 サステナグロースカンパニーをもっと。株式会社船井総合研究所 〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー 35階

当社ホームページからお申込みいただけます。(船井総研ホームページ [www.funaisoken.co.jp] 右上検索マークに [お問い合わせNo.] を入力してください) 140192

お申込みはこちらからお願いいたします

スマホ・タブレットの方は右記のQRコードを読み込んでいただきWebページにある申込みフォームよりお申込みいただけます。

※お申込みに関してのよくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索しご確認ください

お申込み HP URL <https://www.funaisoken.co.jp/seminar/140192>

【お問い合わせ】船井総研セミナー事務局 E-mail:seminar271@funaisoken.co.jp [TEL] 0120-964-000(平日9:30~17:30)

※お電話・メールでのセミナーお申込みは承っておりません。また、お問い合わせの際は「お問い合わせNo.とセミナータイトル」をお伝えください。



お問い合わせ No.S140192



# 園の「気になる子」、増えてきていませんか？

- ・発達障がいのある子どもが、前よりも増えたように思う
- ・本当はその子に合う支援を提供したいが、今の配置基準では対応に限界がある
- ・午睡が苦手だったり、主活動で一緒に行動ができなかったりして、他の児童もつられてクラスがまとまらない
- ・近隣に児童発達支援に通う児童はいるが、送迎の負担やその支援内容を考えると本当は自分の園でやりたい
- ・卒園児に対しても、できる限りのサポートを続けたい

皆さまの園でもこのような悩みを抱えていらっしゃいませんか？

本レポートでは、高齢者介護、保育園・認定子ども園から障がい福祉事業を展開されている、「社会福祉法人慈光明徳会・株式会社常笑」(Jグループ)での立ち上げの経緯や成功のポイントについて藤岡氏にお話をお聞きました。

## 成功事例紹介

### 「Jグループ」のご紹介

社会福祉法人慈光明徳会本部は、熊本県の最南端、宮崎県に隣接する湯前町にあります。1943年11月に季節保育所として、お寺のお御堂で始まり、2026年で83年目を迎えます。

本部では幼保連携型認定子ども園、放課後児童健全育成事業、子育て支援拠点事業、グループ会社（株式会社常笑）による児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業を展開しており、地域の0歳から12歳までの児童をワンストップで関わっています。

どの施設も一貫してすべての子どもの可能性を信じ「子どもたちの幸せ」を求めて最善の利益の追求に努めています。



### Jグループのココが凄い！

子どもの出生数が15人以下の商圏での事業参入

「**超過疎地**」の熊本県湯前町  
人口わずか **3,350** 人  
※令和8年1月時点



**生き残るために**  
子どもに特化した多機能化・新規事業へ  
熊本市・東京への進出

400名以上の障がい児をサポート

事業所合計 登録者数  
**400** 名以上



健常児・障がい児関わらず  
地域の子どもの未来を支援

独自の療育プログラムを考案、他事業所へも導入

感覚統合の考え方や様々な運動身体理論  
を組合せた療育プログラム

“**JPメソッド**”



他社導入実績  
**多数!**



社会福祉法人慈光明徳会

株式会社常笑 代表取締役

## 藤岡 洋史氏

Jグループとして社会福祉法人慈光明徳会にて東京、熊本で子ども園、認可保育園、小規模保育所、学童保育、株式会社常笑にて児童発達支援、放課後等デイサービス等を展開。不易流行をモットーに現在も現場にて幼児から高校生までの療育指導を行う。法人本部、本社のある湯前町は人口約3,500人、1学年1クラスの超過疎地。



社会福祉法人

慈光明徳会



## 障がい福祉事業参入のはじまり

私たちが事業に参入したきっかけは、運営している保育園や学童クラブに、発達障がいを抱える園児や児童たちが実際に在籍していたことです。現場で彼らと接する中で、これまでの保育・学童の枠組みだけでは、十分なサポートを届けることが難しいという危機感がありました。

また、外部環境に目を向けると、介護事業の単価減少や少子化といった課題が押し寄せています。「今ある大切な人材と土地を活かしながら、より深く地域に貢献できる方法はないか」と模索した結果、障がい児通所支援事業への挑戦を決断しました。



## 参入して感じる良かった点・苦労した点

### 【良かった点】

何より、0歳から17歳までを「ワンストップ」で支えられる体制が整ったことが最大の喜びです。これまでは12歳（学童卒業）で途切れていたサポートが、高校卒業まで継続できるようになりました。

経営・組織の面でも、以下のようなメリットを実感しています。

#### ①人材の流動性と離職防止

…保育士の中に「障がい福祉に挑戦したい」という意欲的な人材がおり、適材適所の配置転換ができました。保育現場での疲れから離職を考えていたスタッフにとっても、新たな活躍の場となり、離職防止に繋がっています。

#### ②既存事業とのシナジー

…すでに保育園や学童に利用対象となるお子様がいたため、スムーズにサービスを繋げることができました。結果として、保育園側の運営もより円滑になっています。

#### ③地域貢献

…同業他社様も、発達障がいのお子様への支援に苦慮されているケースが多く、私たちの施設がその「受け皿」となることで、地域全体のサポート体制を底上げできていると感じます。

### 【苦労した点】

一方で、苦労した点は「コンセプトの認知」と「集客の繋げ方」でした。すでに関わりのある保護者の方へ、児童発達支援・放課後等デイサービスの必要性や利用をいかに自然に促すか、そして新規開所の際に地域へどう浸透させるかという点は、試行錯誤の連続でした。

ですが、総合的に見れば「始めて本当に良かった」と断言できます。

## 保護者・スタッフからの信頼獲得へ

障がい福祉事業を始めたことで、周囲の方々との関係性にも変化がありました。一番の変化は、保護者の方々とスタッフが抱えていた「目に見えない不安」を解消できたことだと思っています。

発達障がいを持つお子様の保護者様は、「この子にどう教育すればいいのか」「将来はどうなってしまうのか」という深い孤独と不安の中にいらっしゃいます。私たちが専門的な療育の場を作り、高校卒業まで伴走することを約束したことで、「将来の道が開けた」と安心していただけるようになりました。

実は、保育園・認定子ども園に所属する保育士自身も「障がいのある子に対して、どう接するのが正解かわからない」と悩んでいたんです。児童発達支援・放課後等デイサービスが専門性を発揮して責任を持って教育を担うことで、保育園のスタッフは本来の業務に、より一層集中できるようになりました。役割分担が明確になったことで、園全体のサポート体制が強固になったと感じています。

また、私たちは、Jグループの施設内だけに留まらず、近隣の他法人が運営する保育園や子ども園に通うお子様も積極的に受け入れています。地域全体の「障がい児の受け皿」として機能することで、同業者の方々からも感謝され、応援していただける法人へと成長できている。これは大きな自信になっています。

## 各教室の現状（※2025年11月時点）

	事業所名	定員	売上(円)	人件費控除後利益(円)
①	LSJ (Learning support jyo-syou)	10名 (放デイ)	2,982,960	1,315,851
②	発達支援ルーム LSJ KUMA	10名 (多機能)	2,827,780	1,239,181
③	LSJ TARAGI	10名 (放デイ)	2,848,980	1,608,808
④	LSJ江越	児発10名、放デイ10名	5,639,050	2,498,190
⑤	LSJ KUMSMOTO SI	10名 (多機能)	2,990,580	1,322,452
⑥	LSJ GLEE	10名 (放デイ)	2,939,400	1,305,658
⑦	LSJ nikori	10名 (児発)	3,306,000	1,929,703
⑧	LSJ竹の塚	10名 (多機能)	3,829,961	1,630,787
⑨	LSJ梅田	10名 (多機能)	4,200,446	1,726,464
⑩	LSJ谷在家	児発10名、放デイ10名	6,257,697	2,241,434
⑪	LSJ梅島	10名 (多機能)	2025年11月開所	



## JPメソッドについて

JPメソッドは『動作神経理論』に基づき、運動（動作）を通して脳神経系の発達・再構築を促す運動プログラムです。

身体機能・認知機能・感情制御を統合的に整えることを目的とし、乳幼児の発達支援から療育、スポーツ現場まで、多領域で成果を上げてきた理論と実践を体系化しています。

「なぜ姿勢が崩れるのか」  
 「なぜ集中が続かないのか」  
 「なぜ感情が不安定になるのか」  
 こうした現場の“なぜ”に、理論と実践の両面から答えを出せるのがJPメソッドの大きな特長です。

**【運動が変わると、子どもが変わる】**  
 JPメソッドにおける運動は、単なる体力づくりや運動技能の向上を目的としたものではありません。一つひとつの動作には明確な意味があり、脳神経系の発達と再編成を促す「意味ある動作」として設計されています。

トランポリンやスイングなど、子どもが「楽しい」と感じる運動器具を用いながら、感覚入力と運動出力の統合を促進。

その結果、動きの安定性や姿勢制御が高まり、落ち着き・切り替え・自己調整といった行動面にも変化が現れます。



**【学びの土台を、身体から整える】**  
 JP理論では、学習は「頭だけで行われるもの」ではなく、身体活動を土台として成立するプロセスと捉えています。

姿勢が安定し、感覚処理が整うことで、注意の持続、指示理解、模倣学習がスムーズになり、「学ぶことへの抵抗感」が自然と軽減されていきます。

全学年に対応したプリントやデジタル教材を活用し、一人ひとりの発達段階に応じたステップで学べる環境を構築。

その結果、  
 ・保護者の「この先、大丈夫だろうか」という不安  
 ・現場職員の「どう支援すればよいのか」という迷い  
 に対して、理論に裏付けられた支援の軸を共有し、現場全体で“これでいい”と実感できる手応えを持って向き合えるようになりました。

私たちのサポートが、保護者の安心につながり、そして子どもたち一人ひとりの未来を支える確かな力になると、現場を通して実感しています。



## 今後の展望

私たちの根底にあるのは、『子どもと保護者の未来を支え、社会問題を解決する』という想いです。その想いを一人でも多くの方に届けるために、今後は東京でも1年に1事業所ずつは着実に展開していこうと考えています。

もちろん、ただ拠点を増やすのが目的ではありません。どこへ行っても、子どもたちに「根拠のある療育」を提供し続けることが大前提です。そのために、セラピストや専門職の方々とはこれまで以上に深く連携して、質の高い療育を追求していくつもりです。

そして何より、私がこれから力を入れたいのが「人づくり」です。実は、かつて私たちの保育園に通っていた卒園児が、今では職員として保育園や児童発達支援・放課後等デイサービスの現場に戻ってきてくれています。自分たちが関わってきた子どもたちが、今度は支える側としてグループを強化してくれる。これほど嬉しいことはありません。こうした素晴らしい循環を大切にしながら、これまで以上にしっかりと人を育て、組織を強くしていきたいですね。

また、高校を卒業した子どもたちが次にぶつかる壁は、やはり『進学・就職』です。今の日本では一般就労が難しく、福祉的なサービスに留まってしまう方が多いのが現状ですが、地域の雇用の受け皿を私たちがしっかり確立できれば、もっと未来は明るくなるはずです。今後は、就労移行支援や就労継続支援（A型・B型）といった成人向けサービスもさらに整備していきます。

0歳から成人まで、地域の子どもと保護者の未来をずっと支え続けられる。そんな事業展開を目指しています。





## 藤岡氏をゲスト講師としてお招きし、 東京会場で来場型セミナーを開催します

▼セミナーでお話させていただくことの一部をご紹介します▼

### 特別ゲスト講座より

立ち上げ前の  
課題や悩み

立ち上げの経緯

提供している  
療育内容

デイリー  
スケジュール

療育の効果

保護者からの反響

児発管や児童指導員  
の採用・配置

利用者募集

### 船井総合研究所講座より

業界時流と  
今後の展望

必ず確認すべき  
行政ルール

児童発達支援  
立ち上げの  
実施事項

立ち上げの  
スケジュール

園と事業所の  
連携方法

保護者から  
人気の高い  
療育プログラム

必要な職員と資格

採用活動を始める  
前の事前調査

必要な施設基準

レイアウト  
イメージ

保険収入の仕組み  
と収支の考え方

利用者募集の  
具体的な施策

### 過去 児童発達支援立ち上げセミナーに参加された方の声

事例を含め、大変分かりやすく理解することができました。  
ありがとうございます。

児童発達支援事業所の概要等の説明が分かりやすかった。  
また、保育園との併設でシナジー効果があると感じました。

実際の療育の様子を見ることができ、大変参考になりました。  
また、多角化することで保育事業の採用にも良い影響  
がある、ということも興味深く聞かせて頂きました。参入  
に向けて、前向きに検討したいと考えています。

近年、当法人でも配慮が必要な子、集団生活に戸惑いを感じている子が多くなってきています。他法人の児童発達支援施設と連携を取りながら支援を進めていますが、連携が難しいところも感じています。当法人が児童発達支援、放課後等デイサービス機能を持つことにより、子どもたちや多くの保護者に対して、より適切な支援を提供できるのではないかとの思いから今回のセミナーを受講しました。セミナーにて新規参入、運営することの意義、流れの理解へとつながり、今後の運営について考えをまとめる機会となりました。

昨年の4月から指定を受けて事業を始めています。話の内容が具体的でわかりやすかったです。ゲストのお話も当社と重なる部分があり、参考になりました。

# 保育園・幼稚園・認定子ども園が 児童発達支援事業を始める意義

保育園・認定子ども園を設置・運営する皆さまが、**児童発達支援を開始する意義**について次のように考えております。**子ども**にとっても、**保護者**にとっても、**職員**にとってもまさに「**三方良し**」の事業です。



## 実質的に個別支援(1:1)や小集団での支援が可能

児童発達支援の定員は10名で、例えば1日のうち療育時間を午前午後に分けて、1コマあたりの利用者は4~5名等とすることも可能です。職員は児童発達支援管理責任者を含めて最低3名、加算を取得する場合は追加で2名ほど配置することが可能ですので、**実質的に1:1の個別支援や小集団での支援を実現**することができます。

## 園と連携したスケジュールが組める

午前の集団活動の時間や、午睡の時間（発達障がいのお子さんは午睡が苦手だったり、給食後興奮状態になったりすることも多い）に児童発達支援で療育を行い、昼食や午睡、自由遊びはクラスのお友達と過ごすことで**お友達との時間も大切にしながら、その子に合った追加支援を提供**することも可能です。



## 職員の業務負担軽減に繋がる

その子に合った支援を提供したいと思っても、3歳児クラス 20:1、4・5歳児クラス 30:1の配置基準では**現実的に難しい**ことが多いです。児童発達支援で療育を受けることでその時間**その子に合った支援を提供**できるだけでなく、**クラス運営の負担も軽減**される他、療育の効果が出てくることで**集団の中でも落ち着いて過ごしやすくな**っていきます。

## 園の特色を活かしたプログラムを提供できる

貴園の保育・教育理念や方針に則った**保育・教育プログラム**を、児童発達支援ガイドラインに則って**再設計**することで、**園の特徴・特色を活かした保育・教育プログラムを提供**できます（弊社から紹介させて頂く外部プログラムを導入いただくことも可能です）。



## 共働きのご家庭でも利用しやすい

園内や園の近くで実施する場合は**車での送迎は不要**ですし、少し離れた場所に事業所がある場合も**事業所による送迎**（普通自動車等を用いることが多いです）ができれば、**保護者は生活リズムをそのままに子どもに必要な支援を受けさせることができます**。仕事の都合で子どもに療育を受けさせられない、又は子どもの療育の都合で仕事を制限せざるを得ない、そういった課題を解決することが可能です。

## キャリアの多様化で採用や定着にも効果大

児童発達支援の管理者や児童発達支援管理責任者、指導員等の**新たなキャリアステップを提供**することが可能です。また**これまでの採用活動では出会えなかった人材と出会え**、法人が**活性化**する効果も期待できます（また近年「子ども主体」の保育が注目される中、一人ひとりに合った支援の提供は、視座の高い職員からも注目されやすくなります）。



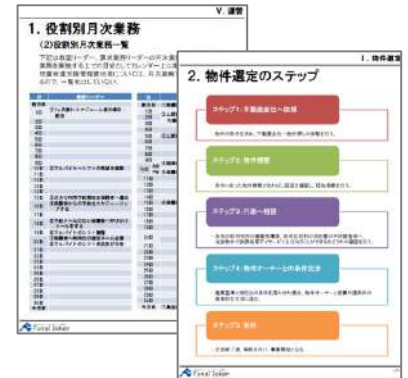
# セミナー会場当日限定！申請や集客、採用に使っているツール類を大公開



初めての障がい福祉サービスも安心！  
各種業務マニュアル

契約・運営に必要な各種帳票類

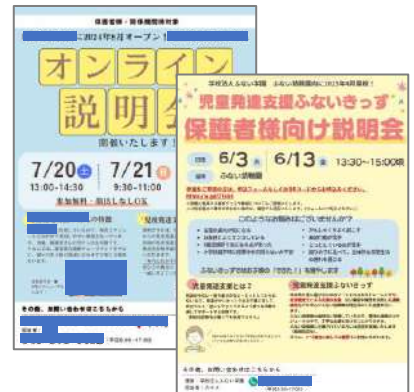
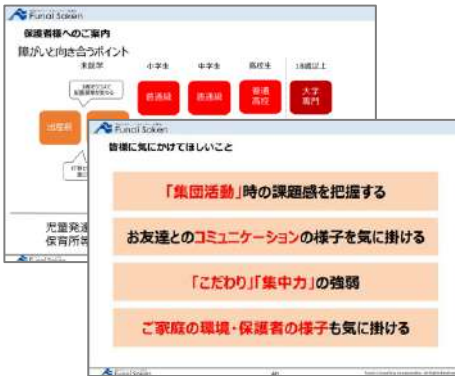
No	備品名称	単価	個数	費用
42	喫茶ポット	3,000	1	3,000
43	時計計	2,000	1	2,000
20	ジョイントマット	10,000	5	50,000
21	パーテーション	15,000	4	60,000
22	冷蔵庫	20,000	1	20,000
23	収納棚 (個人ファイル入れ)	20,000	2	40,000
24	テーブル (事務室、相談室用)	20,000	3	60,000
25	椅子 (事務室、相談室用)	5,000	6	30,000
26	巾着 (子供の荷物収納用)	20,000	1	20,000
27	文房具	-	1	0
28	文房具	消耗品	-	0
29	ショルダー	5,000	1	5,000
30	掃除機	8,000	1	8,000
31	長机	6,000	2	12,000
32	ゴミ箱	2,000	2	4,000
33	トイレ・キッチン用品 (掃除道具、コップ消耗品)	-	0	0
34	カーボックス	2,000	5	10,000
35	テラス	10,000	1	10,000
36	イス	5,000	1	5,000
37	ラミネートフィルム	消耗品	-	0
38	カスタードポット (学習BOX用)	200	20	40,000
39	フォルダ (子ども個人情報保管)	100	20	20,000
40	玩具 絵本	-	0	0
41	冷蔵庫	30,000	1	30,000
42	喫茶ポット	3,000	1	3,000
43	時計計	2,000	1	2,000
小計				629,700



どの備品・教材が必要か分かる！  
運営備品リスト

設備整理の不安を解消  
開所時 設備チェックシート

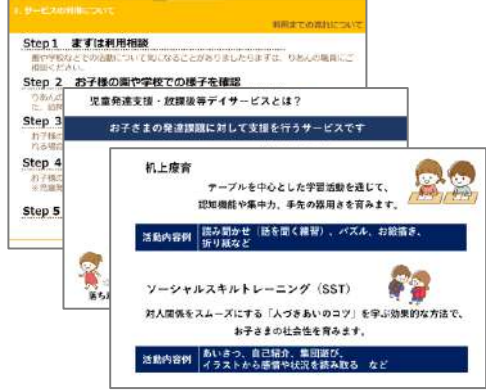
運営の流れがわかる！運営手引書



園職員向け 研修用テキスト

自事業所に合う人材を集める  
お仕事説明会チラシ

知ってもらおう・来てもらう  
イベントチラシ



特色を簡潔にわかりやすく  
まとめた三つ折りパンフレット

事業所のことを知っていただく  
ホームページ

説明会時に使用する 保護者向けの  
プレゼン資料

# 障がい福祉サービス業界動向

## 増える発達障がい児と、障がい福祉サービスの利用者

### 発達障がいの可能性がある児童生徒は約**10**人に**1**人

発達障がいの可能性があり特別な支援が必要な小中学生は通常の学級に8.8%、つまり11人に1人程度在籍していると推計されています。

文部科学省の前回10年前の調査から6.5%増加しており、支援の充実が課題となっています。

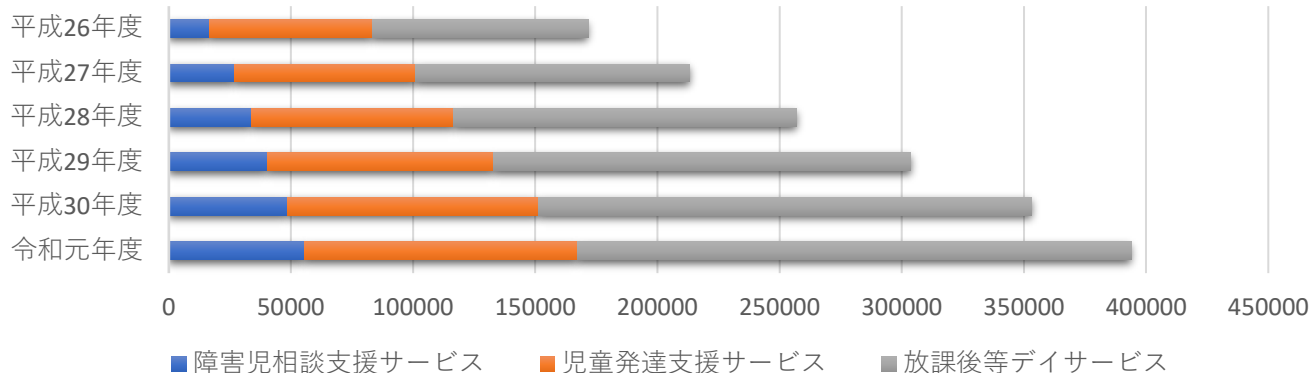
#### 質問項目に対して学級担任等が回答した内容から、「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒数の割合<小学校・中学校>

	推定値 (95%信頼区間)
学習面又は行動面で著しい困難を示す	8.8% (8.4% ~ 9.3%)
学習面で著しい困難を示す	6.5% (6.1% ~ 6.9%)
行動面で著しい困難を示す	4.7% (4.4% ~ 5.0%)
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	2.3% (2.1% ~ 2.6%)

出典：文部科学省

発達障がいの認知度や理解も徐々に広まり、障がい児サービスの利用者も増加傾向ですが、一方で令和元年度でも全児童に対して1.7%しか利用しておりません。発生頻度等を踏まえるとまだまだ適切なサービスを受けることができずに困っている保護者や子どもが多くいることが予想されます。

#### 障がい児サービスの利用児童数 (人)



出典：厚生労働省

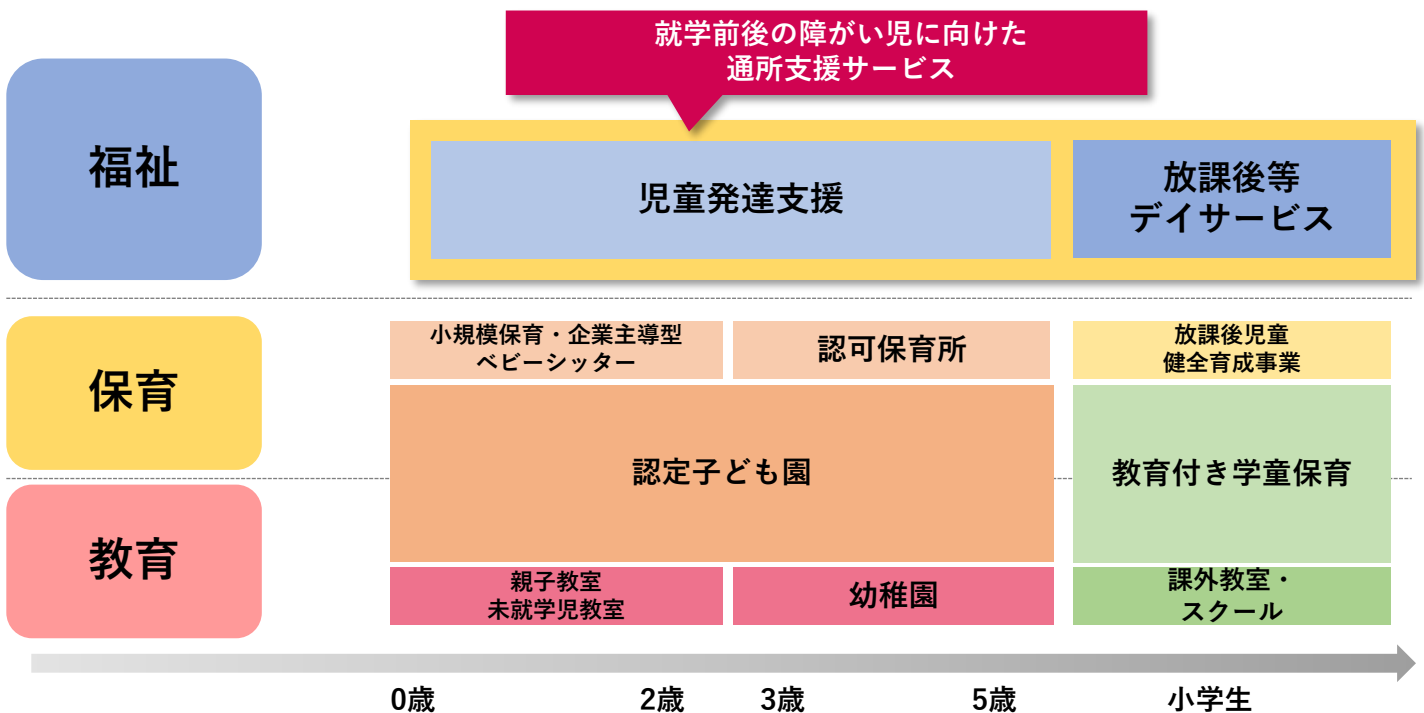
発達障がいは、発達の仕方に生まれつき凸凹がある障がいです。一人ひとりの特性に応じた理解や支援により、その凸凹はその子ならではの個性となります。

一方で、正しい理解や支援がないままだと困難感を抱えたまま成長し、例えば知的に遅れがあるわけでもなく勉強についていくことができなくなったり、何度も叱られることで自己肯定感が下がってしまったり、相手の感情が理解できないことでいじめる側になったり、逆にいじめられる側になったりと、二次障がい（うつ、不安障がい、引きこもり等）に繋がりがかねません。

そういった点でも早期の支援は非常に重要であり、発達障がいの傾向が出やすいと言われる3歳児前後に日常的に関わっている保育園や認定子ども園の皆さまの役割というのは非常に大きいと言えます。

# 障がい福祉サービス業界動向

## 保育・教育・福祉の関係から見る児童発達支援事業の立ち位置



「児童発達支援」は、保育園・認定子ども園事業者が取り組むからこそ、価値の高い教室になる可能性を秘めています！

既に保育園・認定子ども園を運営されている皆様が、児童発達支援・放課後等デイサービス事業に参入することで、自園に在籍している障がい児とその保護者が抱える課題の解決に繋がります。そして既にある地域のネットワークを駆使し、他園の園児も受け入れることで、在園児にとどまらず地域の子どもたち全体の課題を解決することが可能になります。

発達障がいを抱える子どもが増えている今、法人として一体何をすべきか…  
子どもの成長を促すプロフェッショナルである皆様は、障がい児に対しても深いレベルでの療育が可能であり、地域の課題解決を担う可能性を秘めています。是非、今こそ参入をご検討ください。

### < 船井総合研究所が推奨する 児童発達支援・放課後等デイサービス事業モデル >

	児童発達支援
対象	児童発達支援:未就学児(0歳児～5歳児) 放課後等デイサービス:就学児
定員	計 10名
開所時間	9:00～18:00 (サービス提供時間は6時間以上)
開所曜日	月曜～土曜 (地域ニーズや利用ニーズによる、週5日開所や週7日開所の場合も)
必要人員	最低 3名
必要面積	60㎡以上(建物や地域による)
年間売上	3,600万円
年間営業利益	900万円

# 船井総合研究所紙上セミナー



株式会社船井総合研究所

介護・福祉支援部 リーダー

金子理彩



Funai Soken

大学を卒業後、船井総合研究所に入社。フードビジネスのコンサルティングに従事した後、障がい福祉業界にて障がい児通所支援事業の新規開発及び活性化コンサルティングを行う。主に放課後等デイサービス・児童発達支援の業態展開・業績UPを担当し、現場に入り込んだサポートを得意とする。

ここまで、本冊子をお読みいただきましてありがとうございます。ご挨拶が遅くなりましたが、船井総合研究所の金子と申します。

最近、全国の保育園・幼稚園・認定子ども園運営事業者様から、児童発達支援・放課後等デイサービス事業参入に関するお問い合わせを多くいただいております。そのような中で、今回の視察セミナーを企画しているのは、新規事業参入前に誰もが感じる「本当に参入して大丈夫なのか？」「どのように実際運営を行っているのか？」「参入を決める最後の一步が踏み出せない」そんな不安を解消させていただきたいと考えるからです。

そして今、このレポートをお読みいただいている皆様も、何かしらの「参入に向けた不安」があるのではないのでしょうか。今回、少しでも参考にしていただければと思い、「児童発達支援・放課後等デイサービスに参入するうえで重要な4つのポイント」をご紹介します。

船井総合研究所は全国で、児童発達支援・放課後等デイサービスに関するコンサルティングをさせていただいておりますが、その事例の中から見えてきたポイントをまとめた内容となっております。このレポートが少しでもお役立ちになれば幸いです。

## ポイント① 事業参入を決める前に必ず実施！ 商圈調査

経営者の「勘」だけで事業参入するエリアや事業所のコンセプトを決めることには、大きなリスクが伴います。

事業の成功確率を上げるためには、さまざまなデータ分析やヒアリングを実施したうえで参入可否を判断を行うことが重要です。障がい児支援通所事業参入の場合は、下記のデータが重要な指標となります。

- ・障がい福祉計画の見込み量
- ・近隣の学校の利用対象者数
- ・競合状況(事業所数・療育内容)
- ・参入予定地の自治体ルール など



## ポイント② 職員採用は既存リソースの活用で解決

児童発達支援・放課後等デイサービス事業の運営に欠かせない、人材については、既存の保育士等の活用が可能です。

### 児童発達支援管理責任者・・・

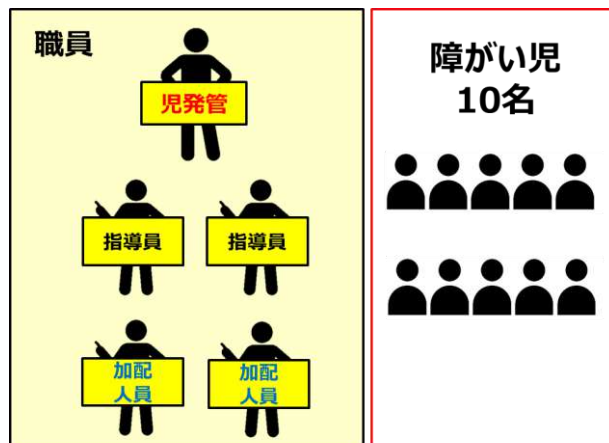
子どもに対する大元の支援の内容を決定する役割があります。保育士経験5年以上で実務要件に該当します。

### 保育士もしくは児童指導員・・・

子ども10名に対して2名の指導員が必要です。保育士を配置することができるため、既存の職員が活用できます。

### 加配・・・

障がい児支援事業で保育士を加配する場合、収益を最大化させることが可能です。



# 福祉事業参入成功レポート

2026

## ポイント③ 必要な部屋の広さは？園の空き教室での開設も可能

児童発達支援・放課後等デイサービスには、下記の設備が必要です。

【必要設備】指導訓練室、相談室(静養室)、事務室、洗面所、トイレ

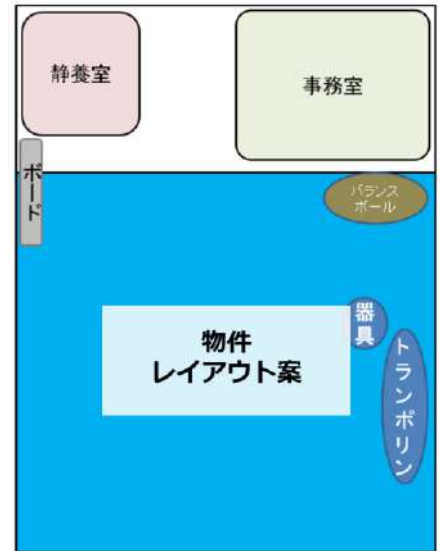
指導訓練室に関しては、子ども1人あたり約3㎡の広さが必要になりますが、この基準は指定権者(都道府県もしくは市区町村)によって異なる場合が多いため、必ず確認が必要です。

自園(保育園や認定子ども園)の空き教室で指定を受けることが可能な場合は、園にすでに設置されている相談室や事務室、洗面所、トイレなどは兼用として指定を受けることもできます。

また、上記の設備のほか、実際には送迎や職員の車通勤用の駐車場スペースも必要となります。

左の図は、運動療育に取り組む場合の事業所レイアウトのサンプルです。

どのような療育に取り組むかによっても必要な規模は異なりますが、例えば運動療育などで体を動かしたり、療育器具の設置が必要な場合は、事業所全体で80~90㎡、機能訓練室は約50㎡、高さ3.5~4mが理想です。



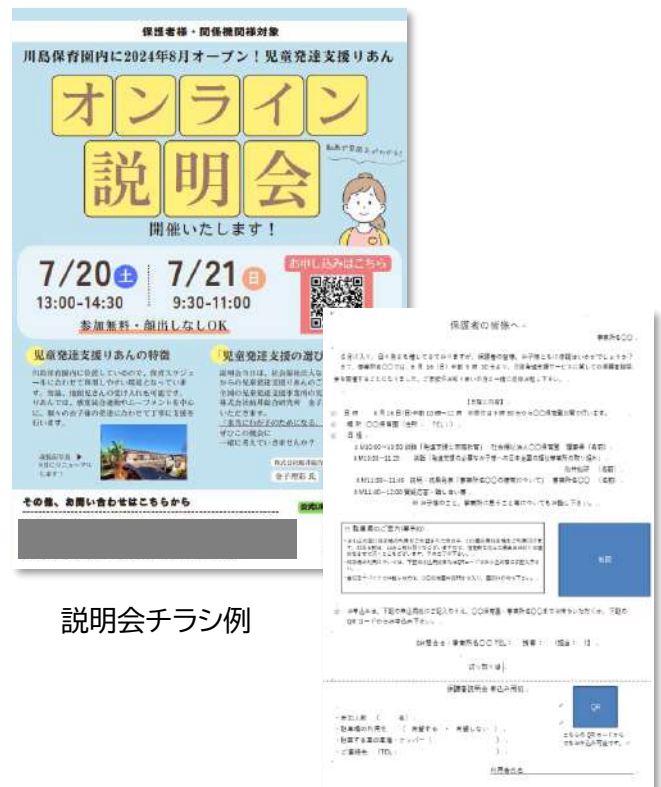
## ポイント④ 在園児の誘導には、「保護者説明会」を企画

未就学児を対象とする児童発達支援の新規利用者募集の際には、保護者が福祉サービスの存在を理解していないことも多いため、福祉サービスを知るきっかけづくりを定期的に行うことが必要です。

在園児保護者には、「保護者説明会」や「療育説明会」など、在園児保護者全体に発信するイベントを行い、見込み利用者の母数を集めましょう。

保護者自身が障がい受容ができていないとクレームになることもあるため、基本的に園の職員から直接保護者に「療育を利用しませんか？」と個別のアプローチは難しい場合が多いですが、上記の形であれば興味がある人全員に説明ができます。

また、既存利用者の利用増加を図る際には、「参観日・成長事例発表会」など、利用当初からの成長を事例として発表することで利用者・保護者の満足度が上がるイベントが効果的です。



説明会おたより例

より具体的な新規参入に向けての取り組みや詳細な事例については、**セミナー**にて、たっぷりとお伝えできればと思います。